



第508号 令和2年11月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 杉本英造

## 理事会便り

会長 杉本英造

新型コロナウイルスも気温の低下と共に、第3波の可能性あり注意が必要となってきました。学校での感染報告も続いています。7月、西京区の小学校で感染がありながら学校医への連絡がない事例があり、学校医への感染報告を学校から必ず行ってほしいことを教育委員会に申し入れしていたのですが、残念ながら10月に中京区では、濃厚接触者で検査結果待ちの児童（自宅待機中）がいましたが連絡が遅れ、健診がなされた事例がありました。校医ニュース8月号でお知らせしたように「学校と各学校医協議の上決定した、健診日時の3週間前に陽性者が発生していないこと」が健診実施条件ですので遺憾です。11月にも山科区で学校医への連絡が遅れた事例あり、改めて教育委員会へ連絡網の改善を求めています。学校医は地域医療も担っていますし、兄弟がいる場合、他校への影響もあり、迅速に発生状況を知ることが大事です。学校医会では、京都府医師会：学校保健委員会と協議し対策を検討していますので、改めてご報告いたします。就学時健診についても、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、健康診断実施日以前の3週間以内に、児童生徒及び教職員に当該感染症の罹患（陽性判明）が確認された場合は、原則として実施を延期し、日程の再調整をお願いします。① 就学予定者やその同居家族がPCR検査を受検する予定がある場合や濃厚接触者に特定されている場合は来校を控えていただくよう説明すること。② 来校時に就学予定者、保護者の健康状態を「健康観察票」を活用して確認し、症状がある場合は学校に連絡することを教育委員会から学校へ通知されています。

国立感染症研究所の「新型コロナウイルス感染者に対する積極的疫学調査実施要項」（5月29日版）から用語

の定義を紹介しします。「患者（検査により確定例）：の感染期間」とは発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状を呈した2日前から入院、自宅、施設待機開始までの間。「無症状病原体保有者（症状はないが検査により診断）の感染可能期間」とは、陽性に係る検体採取日の2日前から、入院、自宅や施設待機開始までの間となっています。「濃厚接触者」は「患者」「無症状性病原体保有者」に感染可能期間（2日間）に接触したかどうか調査対象となります。9月に桂川中学校で発生した事例を、塚本忠司先生にご執筆いただきましたので参考にしてください。今後どこでも発生する可能性があり、会員の皆様の一助になれば幸いです。

10月10日に、令和2年度子どもの健康週間（日本小児科学会）行事 子育て支援シンポジウム「遅らせてはいけない！予防接種」が開催され、学校医会後援で山内英子先生にもご尽力いただき、レポート執筆していただきました。今年度初めての研修講演会でした。

今後の学校統廃合についてお知らせします。令和3年度 右京区の高雄中学と双ヶ丘中学校が統合し、双ヶ丘中学校。中京区の西京高校定時制と伏見区の伏見工業高校が、京都奏和高校（新定時制）に統合されます。奏和高校は令和3年に新1年生入学となりますが、西京定時制、伏見工業高校も在校生の間は継続され、西京定時制は令和4年、伏見工業高校は令和5年まで継続予定です。

このような状況下で、学校医活動にご尽力いただいていますことに感謝申し上げます、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

## 令和二年秋のある出来事

桂川中学校医 塚 本 忠 司

前年末より始まった新型コロナウイルス感染症は、都市封鎖などが行われたものの、交通の発達で移動時間が短縮し、人の往来が盛んになっている現代では、感染力の強さも相まって、その広がりをも止めることはできず、半年も経たぬうちに全世界に及びました。我が国でも緊急事態宣言が出、国全体が自粛に包まれました。政府の対応は、場当たりのものであったものの、第一線で活躍されている皆さんの頑張りで医療崩壊を起こさず第一波を乗り切りました。

その後、緊急事態が解除され、人の往来が少しずつ戻るといって、感染者が再び増加し、近隣の診療所での感染者を診たとの話を聞くにつけ、何時身近で発生するかと思っていたところ、9月16日朝、校医をしている中学校の養護教諭より教員に「陽性判明」との連絡を受けました。その日は休校になり、濃厚接触者にPCR検査が行われるとのことでした。その時は、学校では、マスク着用、こまめな手洗い、窓を開け換気を図るなど対策をしているということだったので、一番感染しそうなのはマスクを外す昼食時、教員が陽性なので、そこに近い前の方の席の生徒に感染しているのではないかと危惧しました。結果的には、それは杞憂で、担当するクラスでは陽性者は出ませんでした。

一方、部活には陽性者が判明し、その濃厚接触者に検査が17日に行われました。この時、発熱や体調不良で欠席している生徒や保健室に体調が悪いと訴えてくる生徒がおり、まだ陽性者がいるのではないかと学校は考えていました。その後19日土曜日から日曜日・敬老の日・秋分の日・四連休の間に、残りの全生徒・教職員の検査となりました。このときの連絡は、濃厚接触者とならなかった教員での対応となったそうです。この対応により時間外勤務を増やし、のちに健康管理医として面談することになりました。脱ハンコで、学校現場でもデジタル化をと文

部科学省が言っていると報道されましたが、そのようなシステムが今あるわけではなく、一軒一軒電話することでの対応となりました。また、陽性者が判明してから濃厚接触者の特定や連絡内容の確認に時間を要したことも要因のようです。

最終的に、その中学校での集団感染は収束し、学年閉鎖・学級閉鎖が徐々に解除され、9月30日から全クラスでの授業が再開しました。

校医である小生は、養護教諭より連絡受けるたびに心配し、あれこれお話しはしましたが、直接かわることなく、外野席で済みました。ただ、4・5月に出来なかった内科健診を、学校の予定とこちらの都合をすり合わせてやっと10・11月で実施する日を決めていたものが、一部変更を要し、あおりで出る予定の会議に出られないと言うことはありました。また、先に記しましたが、健康管理医として面談し「職員の健康管理に関する記録表」を書くことになりました。

西京区内の某私立高校での集団感染では、そこからの家族感染から他校に感染が及ぶということがあったため、この中学校も、濃厚接触者となった生徒の兄弟にもPCR検査の結果が陰性が出るまで自宅待機をお願いを連絡したとのことでした。この連絡は、その親にも影響し、近隣の介護施設などでは、職員の出勤見合わせが重なり大変だったようです。

その後、別の中学校での発生の時、同学年全員の検査がすぐに行われたのは、この中学校での経験が生かされたのかもしれませんが。経験にないことに出くわすと、最初は右往左往しますが、少しずつ経験を重ねると、対応が上手くなっていくのでしょうか。今後は一斉メールで連絡が取れることができるでしょうし、さらに生徒全員がスマホを学校に持ってきて良いとなれば、濃厚接触者も一瞬で割り出せるかもしれませんが、まだ夢のような話にも思えます。

# 令和2年度子育て支援シンポジウム

## WEB講演会 「遅らせてはいけない！予防接種」

副会長 山内英子

京都小児科医会では、毎年10月に日本小児科学会子どもの健康週間行事として、子育て支援シンポジウムを企画しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の発生のため、初めての試みではありますがWEB講演会の形で、10月10日「遅らせてはいけない！予防接種」というテーマで開催いたしました。

司会は子育て支援委員会委員長の長谷川功先生。

講演1は、「子どものためのワクチン接種最新情報2020ーコロナ流行に打ち勝つための体づくりー」というテーマで、京都市立病院副院長/感染管理センター部長の清水恒広先生にお願いいたしました。

令和2年10月1日から定期予防接種にロタウイルスワクチンが加わったこと。日本では2011年、2012年と2種類のワクチンが世にでましたが、ご家族の希望のもとに行う任意接種のワクチンでした。欧米先進国の接種状況からみると、10年以上前の日本では公費負担で受けられる子どものワクチンの種類は十分とは言えず、その意味でワクチン後進国でした。しかしこの10年で、髄膜炎を予防するヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンや、B型肝炎ワクチン、水痘（みずぼうそう）ワクチンが定期接種となり、公費接種できるようになりました。公費負担で接種拡大したいワクチンとして残っていたものの一つが、ロタウイルスワクチンでありました。今後は、おたふく風邪ワクチンやインフルエンザワクチンも定期接種になるように、国の検討を待ちたいところです。また、異なるワクチンを接種する際に、厳しく守っていた接種間隔が大幅に緩められました。コロナ流行にかかわらず、子どもが病気になることなく、健康に育っていくために、ワクチン接種は絶対に欠かせません。今までよりも接種しやすい環境が整ってきていますので、接種が進められているワクチンは決められた時期に、遅れずに接種を進め、だれもが持つべき基本的な抵抗力を身体に備わるようにしましょう！

講演2は「子宮頸がんは予防できる時代に！」というテーマで、足立病院院長の澤田守男先生にお願いいたしました。

子宮頸がんとは、子宮の入り口に発生する悪性腫瘍で、初期の段階では自覚症状の乏しいために、進行した状態で発見されることがあります。その場合、子を宿すことが出来なくなる可能性がある、さらに生命も危険にさらされてしまうといった、恐ろしい病気です。子宮頸がんには、がんの原因に対してアクセスする「一次予防」、早期発見・早期診断を目的とした「二次予防」が確立されています。前者がヒトパピローマウイルス（HPV）に対する予防ワクチン（HPVワクチン）、後者が子宮がん検診（子宮頸部細胞診）にあたります。HPVワクチンは日本では2009年12月に発売となり、2013年4月に定期接種に組み込まれましたが、2013年6月に積極的勧奨中止となったまま、7年以上が経過しました。HPVワクチンも2価・4価の時代から、いまや9価が世界では主流となっています。日本でも2020年7月21日に9価のHPVワクチンが認可され、いよいよ子宮頸がん予防の新局面と期待しているところです。

質問はどちらも講演中からオンラインで受け付け、時間内には答えきれないくらいの質問がよせられました。

ログイン数は115名、うち医療関係者68名、学校・保育関係者12名、一般35名でした。また講演会場には医師5名が参加しておりました。「コロナ禍であわただしいなか、WEB配信という方法で学ぶ機会を下さり、ありがとうございます。」という書き込みをいただき、こういう形で開催できて良かったと思っています。

当日のWEB講演会を見逃された先生方には、京都小児科医会のホームページから動画配信される予定ですので、是非ご覧ください。

## 第 6 回 常任理事会

令和 2 年 11 月 7 日 於 こどもみらい館 4 階

出席者 杉本会長，井本・山内副会長，中嶋・西村・林各常任理事，嶋元眼科学校医会理事，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，奥村議長，長村・東道監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 腎臓相談 10/6 1名
2. 精神衛生研究会 10/8
3. 令和 2 年度子どもの健康週間（日本小児科学会）  
行事 子育て支援シンポジウム  
WEB講演会 10/10  
ログイン数115名(医療関係者68名，一般35名，  
学校関係者12名，一般35名)
4. 色覚相談 10/13 1名， 10/20 2名，  
10/27 1名
5. 京都市中学校選手権総合体育大会 ラグビーフットボール種目 於：吉祥院グラウンド 10/11  
中嶋：準決勝の 2 試合目，1 名骨折の可能性があるので出場停止を指示するも継続された事例有。他 脳震盪，捻挫，軽い怪我数人 10/18  
生田先生
6. 京都府眼科医会校医会の内規変更について
7. 桂坂小学校校医：守上芳樹先生 10/30  
新任校医研修（事務局 於）
8. 東総合支援学校：日衛嶋郁子先生10月末退任→  
11月 1 日から小谷祐実先生ご着任
9. 令和 2 年度末ご勇退先生の後任校医について
10. 令和 3 年度 学校医複数配置校，学校統合
11. コロナ感染報告 PCR 検査で陽性の場合，2 日前に学校に来ていれば濃厚接触者となる
12. その他

### <協議事項>

1. 新型コロナ感染について
2. 指定学校医制度の単位救済措置について  
単位を取得できる講演会が今年度は少ない。
3. 小学生陸上記録会について 令和 3 年 2 月 11 日  
西京極総合運動公園 1200 名  
医務室勤務は 2 名必要 次回担当を決める。
4. その他  
京都市の集団特定健診は来年度も行わない

### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 11/10，11/17，11/24
2. 精神衛生研究会 11/12
3. 第 51 回全国学校保健・学校医大会 IN 富山  
11/14
4. 第 7 回常任理事会 12/5 午後 2:00~
5. その他

